第３回　四国地方整備局
事業評価監視委員会説明資料

資料－４－２－１

一般国道１１号
徳島（とくしま）インター関連
（事後評価）

令和元年12月6日

国土交通省四国地方整備局

1．事業の目的と概要（１）

開通後５年経過

■ 事業目的

・一般国道11号徳島インター関連は、四国横断自動車道徳島IC～鳴門JCT間の整備に合わせ、一般国道11号と四国横断自動車道を接続するインターチェンジの整備を行ったものである。

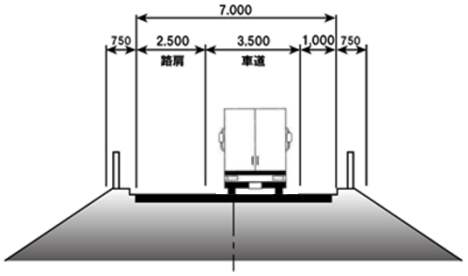
・一般国道11号徳島インター関連は、四国横断自動車道と一体となり、並行する国道11号等の交通流を円滑にし、救急医療における搬送時間の短縮、緊急輸送道路の機能強化を図るとともに、徳島中心部から西日本各地への工業製品、農水産物の物流効率化や観光交流の促進を図ることを目的とした事業である。

■ 計画概要

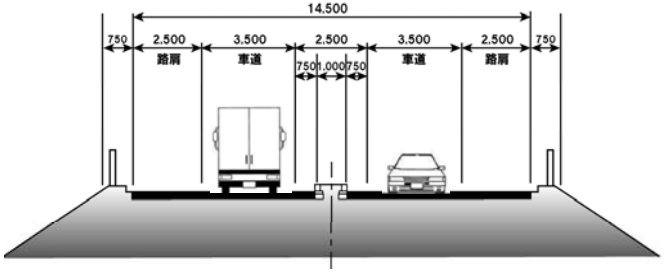
事業名		一般国道11号 徳島（とくしま）インター関連
起終点		自：徳島市川内町鈴江北（とくしまし かわうちちょう すずえきた）　至：徳島市川内町竹須賀（とくしまし かわうちちょう たけすが）
延長 幅員		延長：0.2km 幅員：7.0m（1方向1車線部）、 14.5m（2方向2車線部）
構造規格 設計速度 車線数		1級A規格 40km/h 2車線
事業の経緯	事業化	平成14年度
	用地着手	平成18年度
	工事着手	平成21年度
	開通年	平成26年度（平成27年3月14日）

■ 標準断面図　（単位：m）

<ランプ部１方向１車線部>



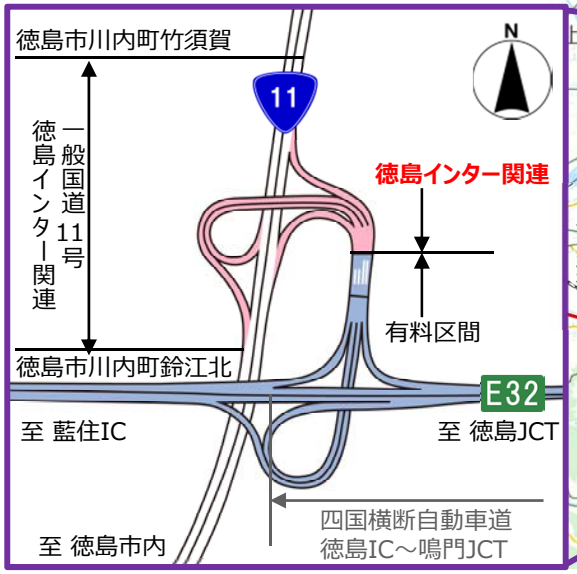
<ランプ部２方向２車線部>



1．事業の目的と概要（２）　事業経緯

■ 事業経緯

項目	徳島インター関連	（参考）四国横断自動車道 徳島IC～鳴門JCT
基本計画	平成元年2月	平成元年2月
都市計画決定	平成6年11月	平成6年11月
整備計画	平成8年12月	平成8年12月
事業化	平成14年度	平成10年12月（施行命令）
用地買収着手	平成18年度	平成16年12月
工事着手	平成21年度	平成17年3月
開通	平成26年度（平成27年3月）	



２．費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

■ 当初計画と開通時の比較

＜一般国道１１号　徳島インター関連＞

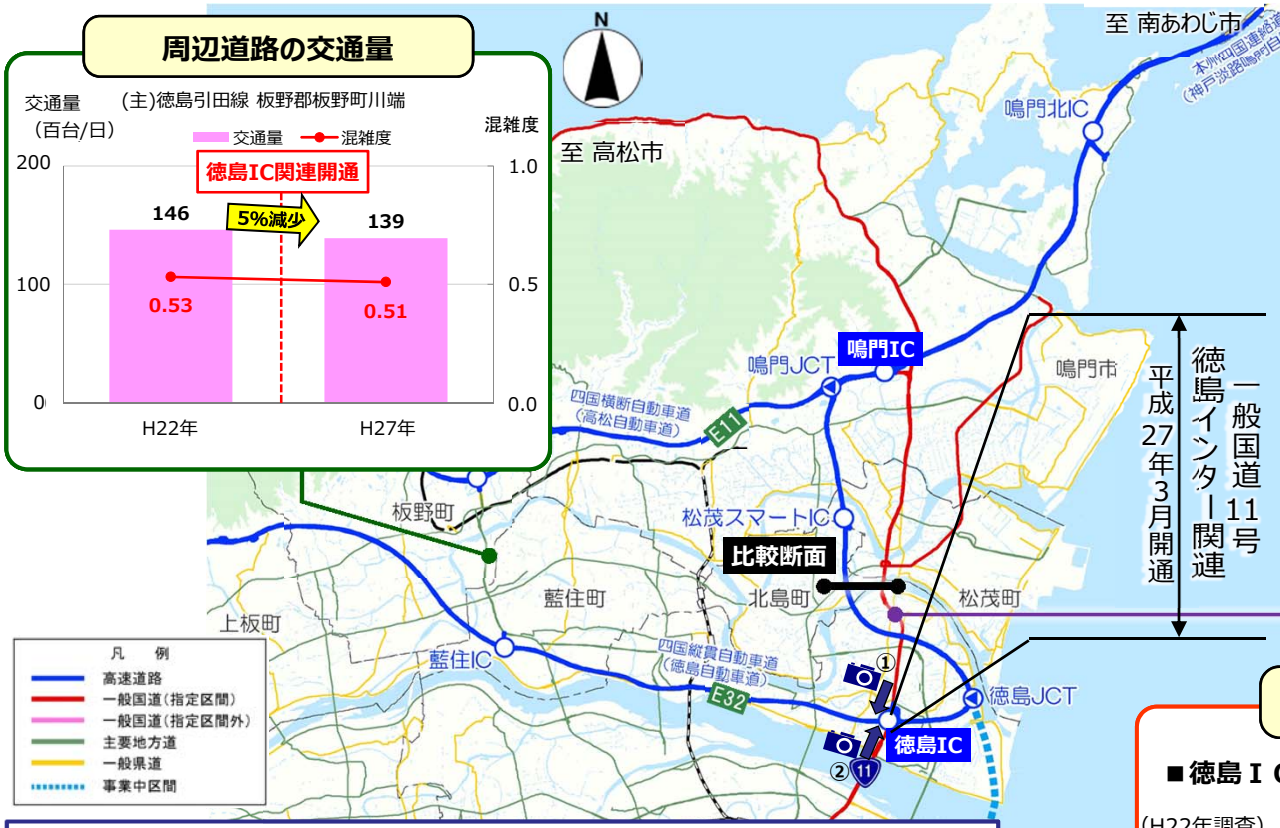
	当初計画 （H21年度※）	開通後 （R１年度）	変化及びその原因
道路構造等	【ランプ】 第１級Ａ規格 延長 2.0km ２車線	【ランプ】 第１級Ａ規格 延長 2.0km ２車線	変化なし
総事業費	83億円	85億円	・軟弱地盤対策工を置換基礎から地盤改良工へ工種の変更（2億円増） ・補強土壁工において維持管理を容易におこなえる壁面材への変更等（2億円増） ・橋梁の短縮化及び仮設交差点の縮小等（2億円減）
計画交通量	3,900台/日	3,800台/日 （4,000台/日）	・当初計画は、Ｈ17全国道路・街路交通情勢調査ベースでの将来（R12）推計値 ・開通後は、H22全国道路・街路交通情勢調査ベースでの将来（R12）推計値 ・開通後の（　）内は、平成27~30年度の平均交通量
事業期間	平成14年度 ～平成26年度	平成14年度 ～平成26年度	変化なし
費用便益比 （B/C）	1.7	1.5	・費用便益分析マニュアルの改訂

※　当初計画は、最初の再評価（平成21年度）の値を記載

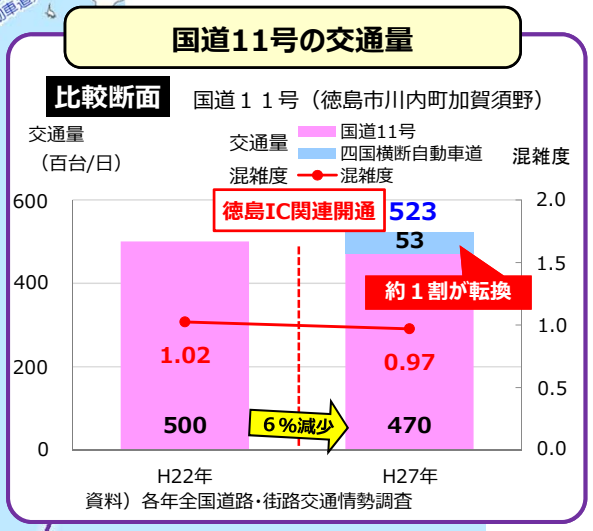
３．交通量の変化

●国道11号の交通量は 約47,000台／日で、**四国横断自動車道開通により約3,000台／日の減少**。
●四国横断自動車道(徳島IC～鳴門JCT)を利用する交通量は 約5,300台／日であり、**交通量の約１割が四国横断自動車道に転換**。
●徳島ICから鳴門ICまでの約８ｋｍの所要時間は、開通前(国道11号利用)と比較して**高速道路利用で約４分短縮**。

周辺道路の交通量

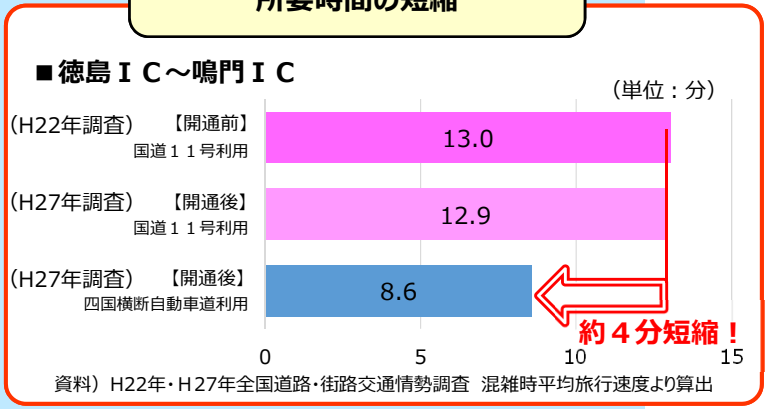


国道11号の交通量



資料）各年全国道路・街路交通情勢調査

所要時間の短縮



資料）H22年・H27年全国道路・街路交通情勢調査 混雑時平均旅行速度より算出

【徳島IC利用状況】

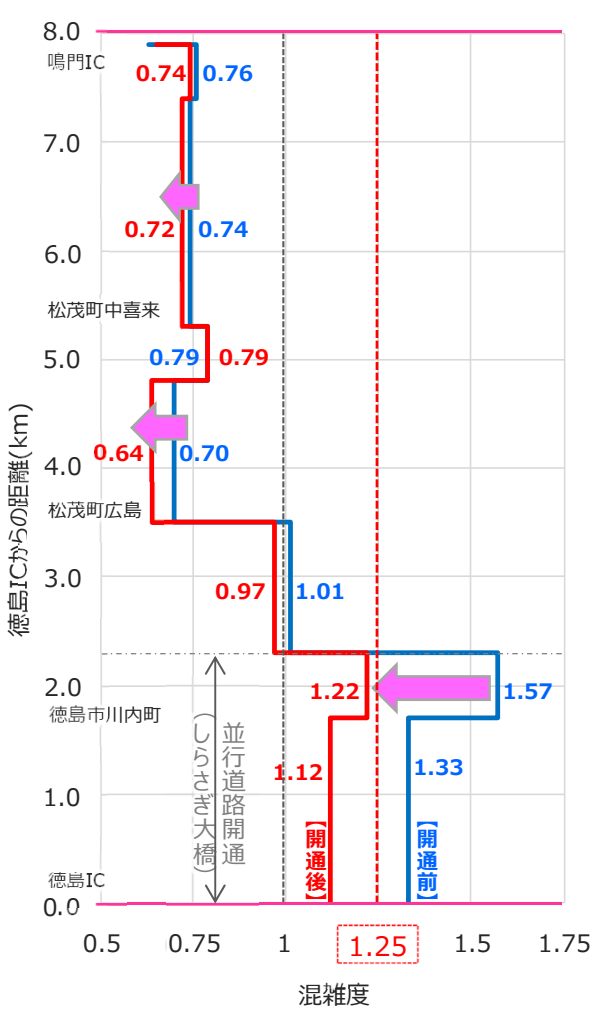
鳴門市方面から徳島ICを望む

徳島市方面から徳島ICを望む

4．事業効果の発現状況　（1）混雑緩和

●四国横断自動車道(徳島IC～鳴門JCT)間に並行する**国道11号の混雑度はおおむね減少**。

交通の転換による国道11号の混雑緩和



資料）【開通前】H22年全国道路・街路交通情勢調査
【開通後】H27年全国道路・街路交通情勢調査

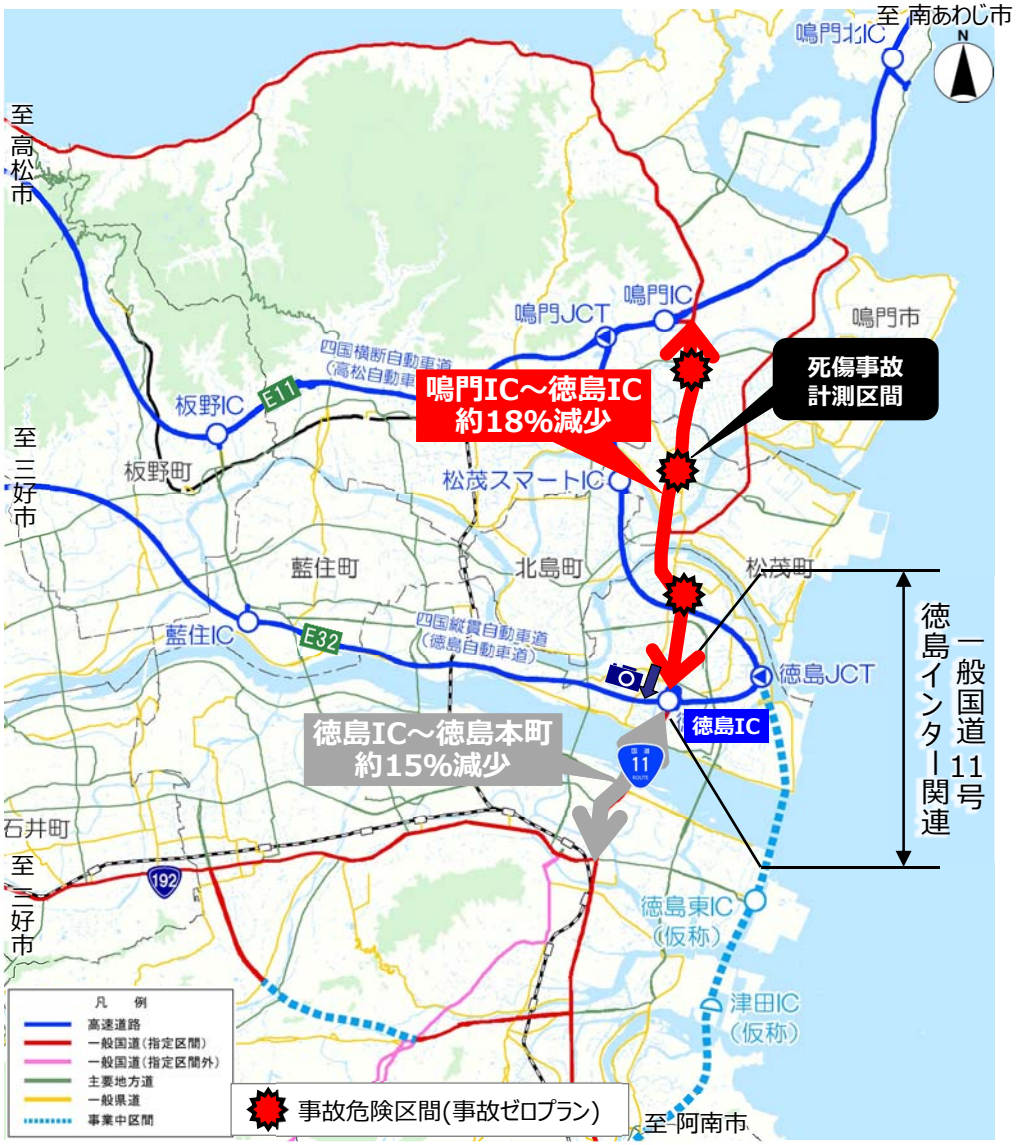
【国道11号 竹須賀交差点の状況】

▼参考：混雑度の目安（「道路の交通容量」より抜粋

1.00未満	1.00-1.25	1.25-1.75	1.75-2.00	2.00以上
道路が混雑することなく、円滑に走行できる。	道路が混雑する可能性のある時間帯が1～2時間あるものの、何時間も混雑が連続する可能性は小さい。	ピーク時間帯はもとより、ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速度的に増加する可能性が高い状態。	慢性的混雑状態。昼間12時間のうち混雑する時間帯が約50%に達する。	慢性的混雑状態。昼間12時間のうち混雑する時間帯が約70%に達する。

4．事業効果の発現状況　（2）沿線地域の安全性向上

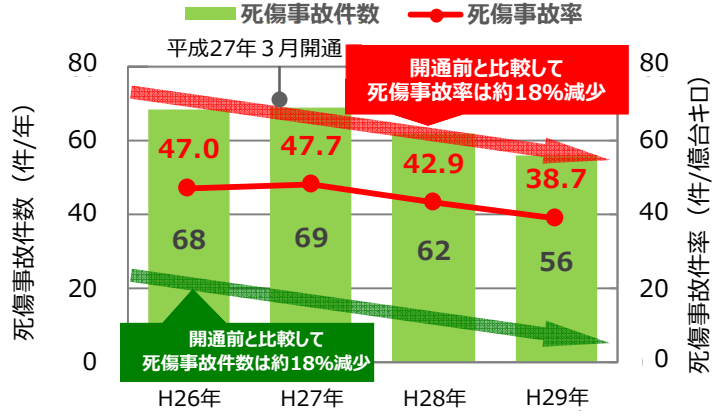
- 徳島インター関連および四国横断自動車道が開通し、国道11号から四国横断自動車道へ**約１割の交通量が転換**。
- 全国交通事故件数が約18%減少している中、国道11号・徳島IC以南では約15%の減少でとどまっているが、徳島IC～鳴門IC間の死傷事故件数及び死傷事故率とも約18%の減少率となり、全国の減少率並みとなっている。



【国道11号(徳島IC付近)の状況】（R1.10.31）

鳴門市方面から徳島ICを望む

国道11号（鳴門IC～徳島IC）
死傷事故件数・死傷事故率の減少

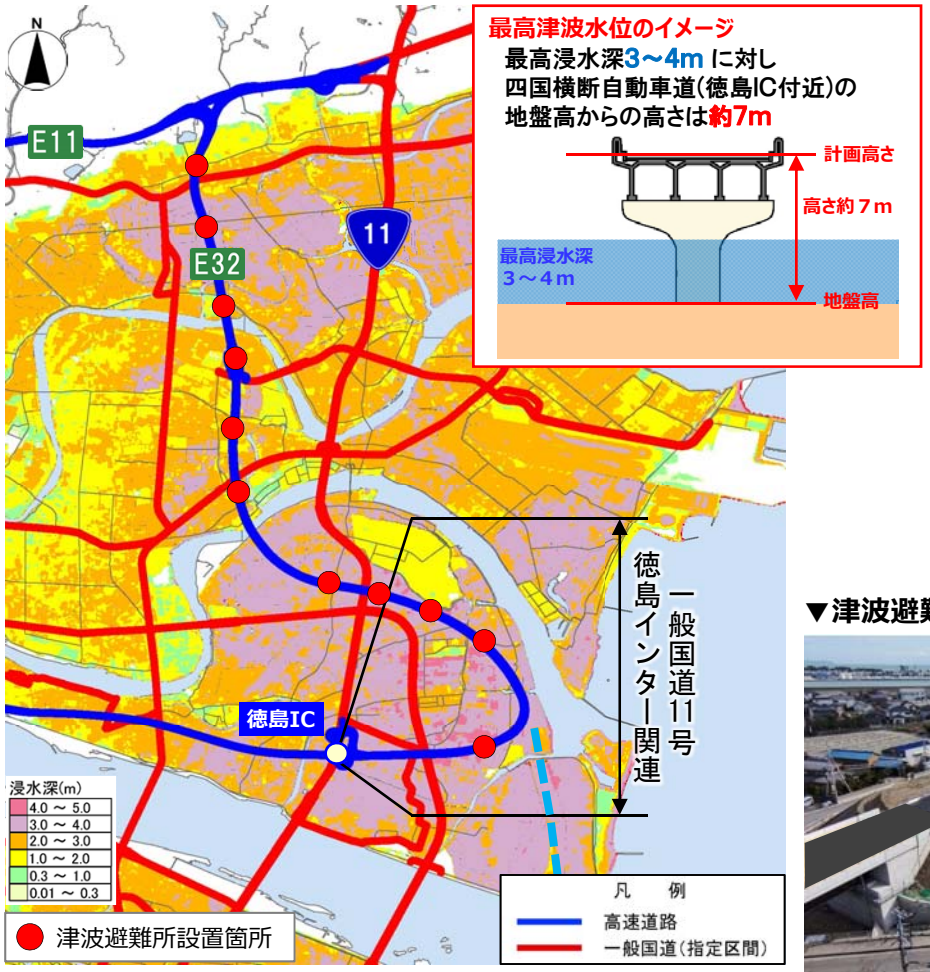


同時期の全国の交通事故件数は約18%減少（H26～H29）
資料）H26-H29イタルダデータ　注）徳島IC～鳴門IC間で集計

4．事業効果の発現状況　（3）南海トラフ巨大地震発生時における救援･啓開活動支援

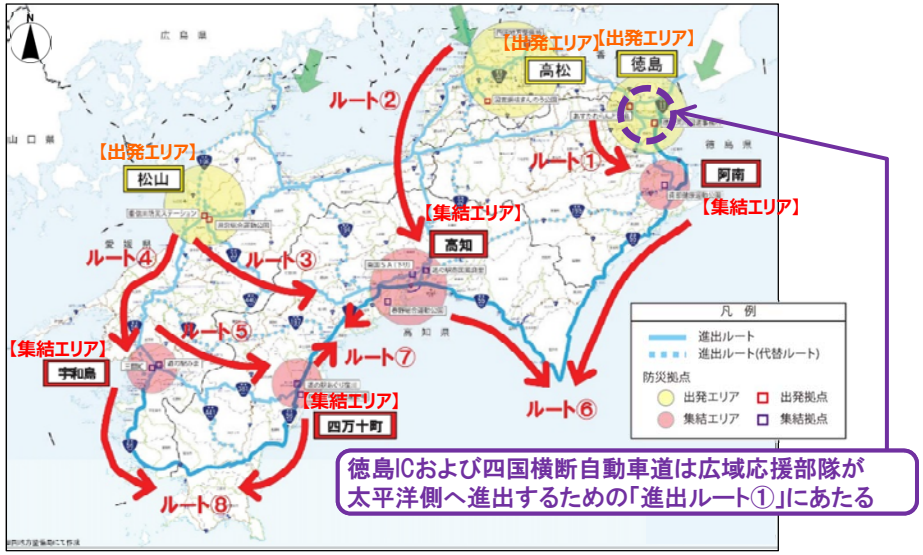
●国道11号は、南海トラフ巨大地震発生時の津波浸水・建物倒壊により通行が遮断・阻害され、徳島市中心部への**被災地への救援救助、物資輸送や復旧支援への支障が想定**。
●徳島ICおよび四国横断自動車道(徳島IC～鳴門JCT)の開通により、徳島市中心部に近い**徳島ICの利用により、迂回時間の短縮や、安全で確実な通行確保が可能**となるほか、**徳島ICを起点とした救援・啓開活動が可能**。
●四国横断自動車道(徳島IC～鳴門JCT)では、沿線市町と連携して、**高速道路区域を活用した津波避難所**(11箇所)が設置され**地域防災・安心感の向上**に貢献。

▼緊急避難路としての徳島ICおよび四国横断自動車道



資料）徳島県徳島県津波浸水想定（H24.10月）、NEXCO西日本資料

▼四国おうぎ（扇）作戦における役割



資料）四国道路啓開等協議会「四国広域道路啓開計画」（平成28年3月）

▼津波避難所(盛土タイプ)の設置状況

資料）NEXCO西日本資料

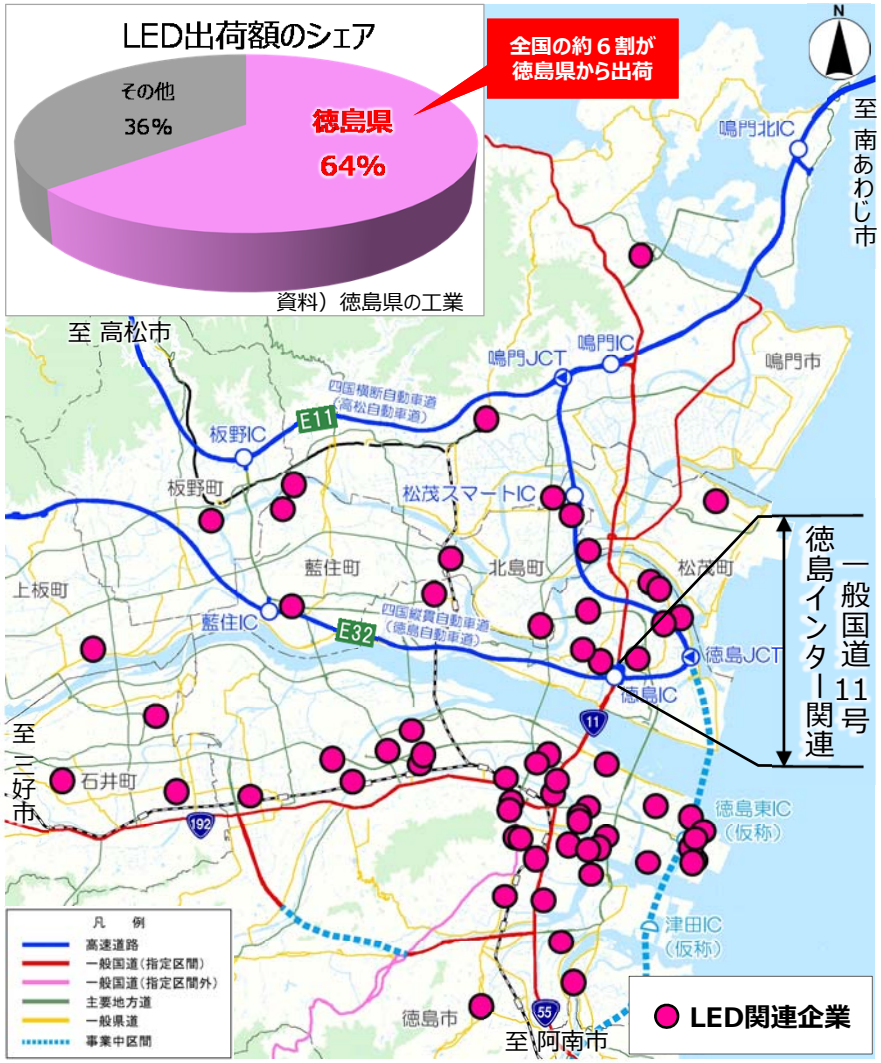
▼津波避難所での避難訓練

資料）NEXCO西日本資料

4．事業効果の発現状況　（4）地域産業の活性化　～LED産業～

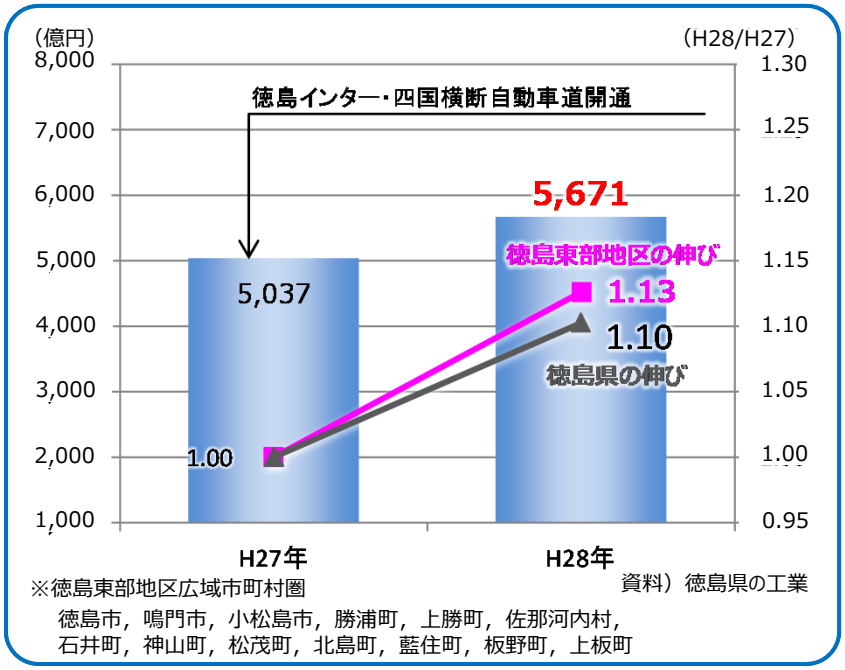
●徳島IC周辺にはLED関連企業が立地しており、徳島県のLEDは**全国の約6割を出荷**。
●高速道路の整備後には、IC周辺企業の製造品の出荷が増加、**徳島東部地区の出荷額は徳島県全体の伸びよりも大きい約13%の増加**。
●徳島インター関連および四国横断自動車道(徳島IC～鳴門JCT)は、**主要産業を支える交通基盤**として**地域活性化に寄与**。

▼工業団地、LED関連企業分布状況



資料）徳島県商工労働観光部新未来産業課HP

▼徳島東部地区広域市町村圏の製造品出荷額（産業分類：化学･電気）



※徳島東部地区広域市町村圏
徳島市，鳴門市，小松島市，勝浦町，上勝町，佐那河内村，
石井町，神山町，松茂町，北島町，藍住町，板野町，上板町

資料）徳島県の工業

輸送の利便性が向上
～沿線事業者の声～

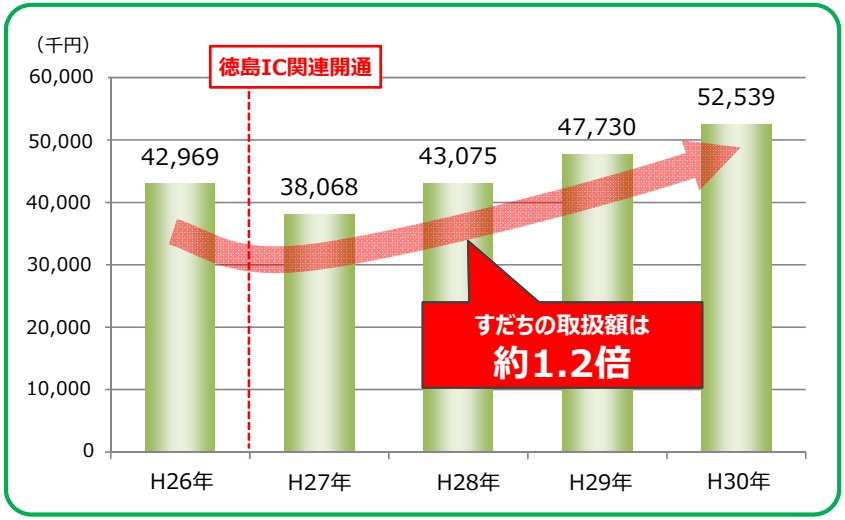
・徳島ICに近いため、関西・高松方面への出張で**高速道路を利用する機会が増えました**。
・徳島ICを利用することで、**目的地への所要時間の短縮**に役立っています。
・営業先への移動時間が読みやすくなり、**利便性・効率性は上がりました**。

4．事業効果の発現状況　（５）地域産業の活性化　～すだち～

●徳島県の名産である『すだち』の需要が近年高まっており、大阪府中央卸売市場における**すだちの取扱額は約1.2倍に増加**。
●大阪府中央卸売市場におけるすだちの取扱量は、**徳島県産がほぼすべて**を占める。
●徳島インター関連および四国横断自動車道(徳島IC～鳴門JCT)は、徳島県の**名産品の出荷を支える交通基盤**として**地域活性化に寄与**。

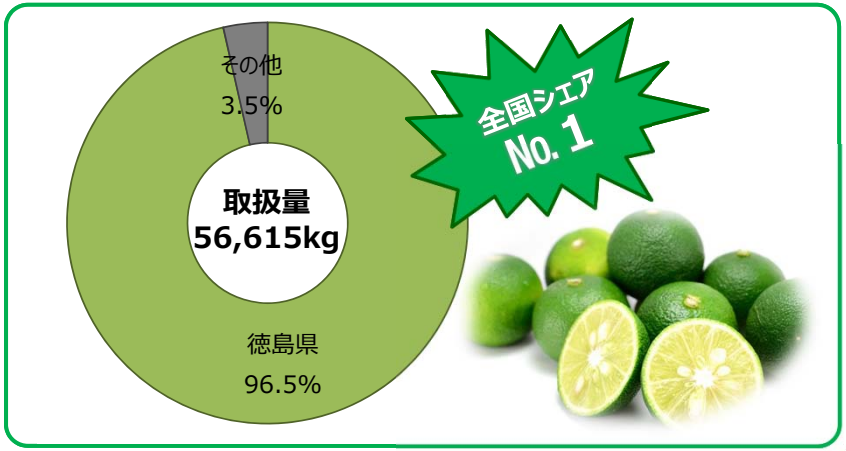
▼すだちの産地図

▼すだちの取扱額(大阪府中央卸売市場)



資料）大阪府中央卸売市場　市場年報

▼大阪府中央卸売市場における徳島県産すだちのシェア(H30年)



資料）大阪府中央卸売市場　市場年報

大阪方面への出荷量が増加

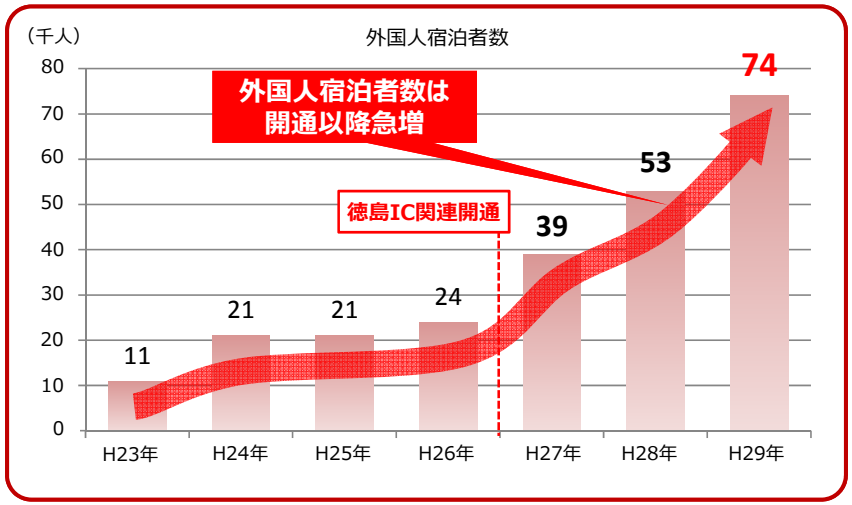
～ＪＡの声～

・近年は**企業向けの「すだち」需要が増加**しています。
・特に**大阪方面への出荷が多く**なっています

4．事業効果の発現状況　（6）地域産業の活性化　～観光～

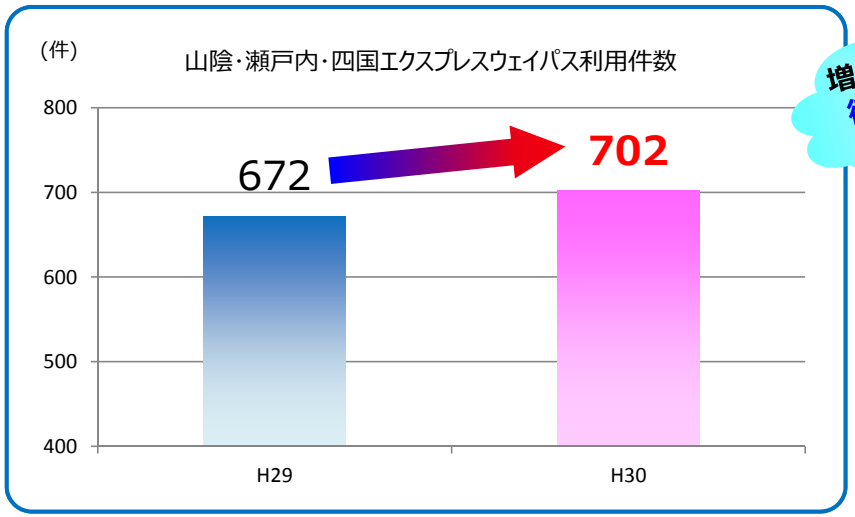
- 徳島県においてもインバウンドの増加が大きく、県内の外国人宿泊者数は、徳島インター関連・四国横断自動車道(徳島IC～鳴門JCT)開通以降には**約３倍の伸び**。
- NEXCO西日本によるインバウンド向け割引企画による外国人周遊観光の促進などと合わさり、**地域の観光活性化に貢献**。

▼徳島県の外国人宿泊者数



資料）徳島県統計書

▼山陰・瀬戸内・四国エクスプレスウェイパス利用件数



資料）NEXCO西日本資料

▼徳島県の主要観光地

▲祖谷のかずら橋

▲阿波おどり会館

資料）NEXCO西日本資料

５．今後の事業評価の必要性等

今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性

徳島インター関連の整備により、四国横断自動車道と連絡でき、並行する国道11号等の交通流の円滑化が図られ、巨大地震発生時における救援・啓開活動の支援、物流効率化や観光交流の促進という徳島インター関連の整備目的に見合った効果が確認できていることから、今後の事後評価および改善措置の必要性はない。

同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

事業前・事業後の整備効果に関して統計指標、ヒアリング等を用いて、整備効果の確認が出来ている。
現時点では、同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性は見られない。